

# 図書館だより No. 2

平成 30 年 5 月 11 日発行

ゴールデンウィークが終わりました。何かと忙しく過ぎていった4月の疲れを連休で癒すことはできましたか。今年は桜だけでなく、他の花々も開花が早まり、茨城の国営ひたち海浜公園のネモフィラや秩父の羊山公園の芝桜もゴールデンウィークを待たずに満開を迎えてしまいました。それでも大勢の人で賑わったようですね。青い花を咲かせるネモフィラは空の青と相まって、素晴らしい絶景だと聞きます。ひたち海浜公園のネモフィラが有名ですが、埼玉にも実は名所があるのです。それは森林公園(正式名称は国営武蔵丘陵森林公園)です。来年は森林公園で青の絶景を楽しんでみてください。



さて、先月、2018 年本屋大賞が発表されましたね。今回大賞を受賞したのは辻村深月さんの『かがみの孤城』でした。この本は、「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本 2017」でも見事、第1位に輝いています。物語に心を救われるということを読んで感じられる1冊。ぜひ読んでみてほしいです。

**\*絶景は全国各地にあるのです\***

291-シ 『死ぬまでに行きたい！世界の絶景 日本編』 詩歩 || 著 三オブックス

フランスのモンサンミッシェル、カナダのイエローナイフのオーロラ、ボリビアのウユニ塩湖、世界には一度は見てみたいと憧れる絶景がたくさんあります。けれど、まずは日本の素晴らしい絶景に出会ってみませんか。この本では、47都道府県すべてから絶景が紹介されています。どの景色も写真で見ているだけで、まばたきを忘れてしまうくらい、言葉をなくしてしまうくらいに見惚れる美しさです。日本の魅力を改めて知るのにもよい本です。訪れるのにベストな時期や旅の予算、行き方も併せて載っているので、心を奪われる絶景を見つけた人はいつかぜひ足を運んでみてください。

**\*物語は夢を見せてくれるだけじゃない\***

913.6-ツ 『かがみの孤城』 辻村 深月 || 著 ポプラ社

こころは中学1年生。自分を護るため、学校に行くのをやめて、家の中で過ごしている。そのころの生活を変えたのは、鏡の向こうの世界だった。同じような境遇の7人が集められた世界で、こころたちは1年の猶予つきで、ある課題を与えられる。その謎を解いていくミステリー的なおもしろさにも最後まで目が離せませんが、この物語のすごさは、もうひとつあります。学校へ行くこと、居場所を見つけることがとても難しかったり、その心の内を誰にも明かせない、ということろたちの気持ちを他人事じゃなく感じる人の心にそっと寄り添い、救ってくれる力です。読んでみたらきっとわかるはず。

## 🏆 埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本って?? 🏆

埼玉県では2010年から「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本」という企画を毎年行っています。書店員さんが選ぶ「本屋大賞」のように、本のプロである図書館司書が選ぶイチオシ本だけあって、どれも「読んでよかった!」と思えるおもしろい本ばかりです。楽しんで、どんどん読んでください。

### ★★★★★★埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本2017★★★★★★

- 1位 『かがみの孤城』 辻村 深月 || 著 ポプラ社
  - 2位 『女の子が生きていくときに、覚えておいてほしいこと』 西原 理恵子 || 著 KADOKAWA
  - 3位 『バッタを倒しにアフリカへ』 前野ウルド浩太郎 || 著 光文社
  - 4位 『漫画 君たちはどう生きるか』 吉野 源三郎 || 原作 羽賀 翔一 || 漫画 マガジンハウス
  - 5位 『あるかしら書店』 ヨシタケ シンスケ || 著 ポプラ社
- 【以下、書名のみ】 6位 『学校へ行けなかった私が「あの花」「ここさけ」を書くまで』  
7位 『I LOVE YOUの訳し方』 8位 『もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら』  
9位 『新しい分かり方』 10位 『か「く」し「ご」と「じ」』 『i』

### 496-マ 『バッタを倒しにアフリカへ』 前野ウルド浩太郎 || 著 光文社

インパクトのある書名(表紙も強烈)に、「この本は何だろう」と興味を引かれて、本を開くと、著者である昆虫学者の前野さんのバッタ愛が溢れ出てきます。バッタなんて、恐怖の対象でしかないという人(特に女子に多いのでは…)もこれほどの熱量でバッタへの想いをぶつけられたら思わず、「最後まで読んでこの気持ちを受け止めねば」という使命感が芽生えるはず。当時、日本人は13人しか暮らしていなかったという西アフリカのモーリタニアでバッタの研究に明け暮れる日々の記録は、真剣なのに、どこかユーモラス。好きなものを全力で追いかける姿が眩しく感じられます。

### 図書館司書の「今月はこの本を読みました」

今月は『ハックルベリー・フィンの冒けん』(933-ト マーク・トウェイン || 著 研究社)を読みました。なんとなく知っている名前じゃありませんか? ハックルベリー(ハック)はトム・ソーヤーの相棒です。『トム・ソーヤーの冒険』で一緒にいたずらし、冒険し、財宝を手に入れました。続編ともいえるこの本では、三人称から一人称の文体になり、ハックによって語られる口語体へと変わっています。そのため訳者の柴田さんは語りのリアルさの再現をめざしながら、ハックによる文法的には誤りだらけの文や言葉使いを日本語で表現したそうです。その結果、DVや人種問題、人間は時代の価値観によって「良心」の名のもとにいかにも非人間的な考え方を認してしまうかという、考えさせられる問題を投げかけられながらも、ミシシッピ川流域の美しい自然や、自由なハックの生き様にワクワクしながら読み切ってしまいました。今なら東京デザインランドの「トムソーヤ島いかだ」や「マークトウェイン号」を、10倍楽しめそうです。【鈴木】

## そうだ、先生と本のことを熱く語ろう!! ~伊久美先生編~

司書(以下 司):まずは今年の夏に伊久美先生が紹介してくださった『ノボさん』の話を。伊久美先生は、何をきっかけにあの本を読まれたのですか。伊集院静さんが好きだから？

伊久美先生(以下 伊):ではないんです(笑)

913.6-I 『ノボさん』 伊集院 静 || 著 講談社

司:じゃあ、主人公の正岡子規が好きだから？

伊:はい。高校の時に、「夏目漱石についてレポートを書く」という課題が出て、便覧を開いた時に漱石と子規が並んでいたんですね。それで、漱石より子規の方が波乱万丈でおもしろいって理由で友だちと盛り上がったんです。そしたら、先生が「こんな本もあるよ」って子規について弟子の高浜虚子が書いた本を貸してくれて。エピソードがおもしろすぎて気がついたら、子規にハマってました。

司:正岡子規の俳句は知っていましたが、『ノボさん』を読んでこんな人だったんだ、という発見は確かにたくさんあっておもしろかったです。漱石と子規の友情も、こんなに仲がよかったんだ、って。

伊:意外ですね。タイプも全然違う二人なのに。

司:そうそう、だから、伊久美先生が紹介してくださったのをきっかけに『ノボさん』を読めて、色々学べました。

他にはどんな本を普段読まれていますか。

伊:読書はするんですけど、そんなに純文学を読んでいるわけではないんです。桜庭一樹とか三浦しをんとか、読みやすい女性作家の本ばかりを読んでいます。

司:へえ～。桜庭一樹は何から読み始めましたか。

913.6-サ 『砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない』  
桜庭 一樹 || 著 富士見書房

伊:『砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない』を読んで、

おもしろいと思って、そこから『GOSICK』のシリーズも読みました。

でもやっぱり短編の方がグッときたなという感じです。『赤×ピンク』

とかおすすめです。

913.6-サ 『赤×ピンク』  
桜庭 一樹 || 著 角川書店

司:『GOSICK』シリーズは、うちの図書館でもすごく人気がありました。『砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない』は、まず主人公の女の子の名前が衝撃的ですね。そして、文章の作り方が上手。

伊:話としては重いけど、さらっと読んでしまえて、いつの間にか読み終わってる、って感じがありますね。

司:海外文学はどうですか。読みますか。

伊:児童文学ですか。ロアルド・ダールとかは結構好きで、文庫で揃えて読みました。あとは、『小さい魔女』というドイツの児童文学の本があるんですけど、その本がすごく好きで何度も読みかえました。

943-P 『小さい魔女』  
オフリート プロイスター || 著 学研プラス  
933-ダ 『マチルダは小さな大天才』  
ロアルド・ダール || 著 評論社

『小さい魔女』も『マチルダは小さな大天才』も小さくて弱い、周りからは何もできないと思われている女の子が活躍する話なんですけど、それが子どもの頃から大好きでした。

司:純文学は読んできていないと言われましたが、これから読んでみようと思っているものはありますか。

伊:大学で、谷崎(潤一郎)や横光(利一)、太宰(治)は読んだんですけど、太宰は作品数が多くて触れきれないですね。今は、太宰より芥川が気になっています。「芥川読みたいな～」とか、「『河童』読みたいな～」と

か。太宰も好きなんですけど、気が滅入ってくるというか…

司:この頃の文豪の作品って、そういうの多いですね。読んでみると、内に入ってしまうというか…

伊:もういいよ～、ってなる時がありますよね。こんなことを考える人がいるんだなと思って読むと、おもしろくもあるんですけど。

司:最近、『こころ』を読み返して、あれも暗いってだけでなく、先生と私にしても、Kと私にしても、おもしろい関係にあるなど、そんなところに目がいってしまったんですけど、伊久美先生はどうですか。

伊:『こころ』は高校の時に授業で読みました。おもしろいなと思って、文庫本を買って全編読みましたね。去年、初めて授業でやりましたが、教科書には「下」の最後部分しか載っていないんですね。私は上(先生と私)が1番好きなのに(笑)ぜひ、「上」も読んでみてほしいです。

司:そう、あのラストの部分だけの『こころ』と、最初から最後までを読んでの『こころ』だと、感じるものが変わりますよね。

B913.6-ナ 『こころ』  
夏目 漱石 || 著 新潮社

伊:「恋か友情か」みたいに『こころ』が評されると、「序盤や中盤の家族や友だちについてはどこへいったんだ？」となりますよね。お父さんが危篤なのに、先生からの手紙を読んで実家を抜け出しちゃう「私」とか、すごいシチュエーションだなあと感じます。

司:そう、色々なシーンで「よくよく考えると、何だろうこの状況」って気持ちになりましたが、こんな楽しみ方で読むのもありかなと思いました。

伊:身も蓋もない言い方をしてしまえば、一言で済んでしまう心情にも比喻を用いて何行にもなる文章で表して、しかもそれが全編に渡っているところに漱石の頭のよさを感じました。あ、表現の仕方という女性作家の方がしっくりくるのが多くて、特に平仮名で書いてあるのが好きです。

司:平仮名ですか。

伊:漢字が多くて、きちきちとした字面の文章だと、読めばおもしろいんですけど、スッと共感できなくて。平仮名にひらいた表現だと「あ、その気持ちわかるな」と思えることが多いです。なんとなく女性作家の方が平仮名や擬音を上手に使っているイメージがあって、その流れで桜庭一樹や三浦しをんを読んでいます。内容だけでなく、表現の仕方を気にして読んでいるのかもしれないです。最近だと梨木香歩の『西の魔女が死んだ』を読み返したり、壁井ユカコを読んだりしましたね。

司:壁井ユカコ！読みやすく、おもしろいものを書く作家さんだなと思っているんですけど、最近読まれていないですよ。せっかくなので最後に、壁井ユカコ作品でおすすめを教えてくださいませんか。

伊:『鳥籠荘の今日も眠たい住人たち』です。高校生の頃、図書館で借りて読んだらおもしろくて、1か月後にまた借りて…というのをくり返していたんですが、この間ついに買いました！変わった登場人物たちのちょっとおかしな暮らしぶりが楽しいです。例えば、ある女の子のお父さんは猫の着ぐるみを着ているんだけど、誰もつつこみはしない、そんな世界観の物語です。

司:『NO COLL NO LIFE』もいいですね。

鳥籠荘のシリーズ、私も今度読んでみます！

B913.6-カ 『鳥籠荘の今日も眠たい住人たち』  
壁井 ユカコ || 著 アスキー・メディアワークス

ここには載せきれませんが、他にも、金城一紀、瀬尾まいこなど、たくさんの作家と作品について楽しくお話をさせていただきました。伊久美先生、ありがとうございました！！